



全米日系人博物館

JAPANESE AMERICAN NATIONAL MUSEUM

全米日系人博物館へようこそ

全米日系人博物館は、日系アメリカ人の歴史と体験を、アメリカ史の大事な一部として人に伝えていくことによって、アメリカの人種と文化の多様性に対する理解と感謝の気持ちを高めることを活動の目的としています。

日系アメリカ人の歴史保存の一環として、様々な歴史資料・物品・映像などを収集し、一人でも多くの方に彼らの体験談を知っていただくために、数々の展示や教育プログラムを実施しています。

常設展『コモングラウンド(一致点)』では、日本人が初めて渡米した明治時代から現在にいたるまで、第2次世界大戦中の強制収容という苦い体験を乗り越えた日系アメリカ人コミュニティの歴史を紹介しています。



この常設展『コモングラウンド』を見学するにあたり、日本人移民の背景、彼らの移住先での状況、コミュニティ形成の過程などを把握することは、今回の見学をより意義のあるものにすると考えます。

こちらの資料は、多文化社会米国理解教育研究会が国際交流基金(The Japan Foundation, Center for Global Partnership)の助成を受け、日本における移民学習の意義を踏まえて制作した小・中・高等学校を対象にした学習活動案『移民を授業するー日系アメリカ人学習活動の手引きー』から抜粋したものです。日系アメリカ人の歴史を理解していただくための参考資料として役立てていただければ幸いです。

単に日系人の歴史を学ぶだけでなく、日系アメリカ人と交流を持つことで、教科書からは学ぶことの出来ないものを感じ取っていただきたい。本館の見学がそれぞれの学生にとって意義のあるものになることを願っています。

全米日系人博物館



- * 『移民を授業するー日系アメリカ人学習活動の手引きー』に関しては多文化社会米国理解教育研究会(代表:中央大学 森茂岳雄)へ直接お問い合わせください。(連絡先:巻末参照)
- * 『移民を授業するー日系アメリカ人学習活動の手引きー』に掲載されている授業案は、日本財団の援助によって本博物館が制作しているウェブサイト『ディスカバー・ニッケイ』(www.DiscoverNikkei.org/ja)にも掲載予定です。このサイトでは、日系アメリカ人だけでなく世界各地に定住する日系人の情報を4ヶ国語で発信しています。各国の日系人のインタビュー、写真、エッセイなどを見ることが出来ます。

下記の URL からこの資料はダウンロードできます。

www.janm.org/jpn/jpnprogram/jpnlessonplan.pdf

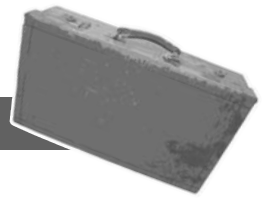
移民を授業する

—日系アメリカ人学習活動の手引き—



多文化社会米国
理解教育研究会
編

Teaching About Migration: Curriculum and Resources Guide



はじめに ー移民を授業するー

現代は、「移民の時代」とも呼ばれています。国連人口部によれば、世界中で国境を越えて移動する人々は、2005年には1億9,100万人に達し、地球上で自国以外に住んでいると推計される人口は世界の人口の30人に1人の割合になってきています。このようなグローバルな人の移動の増大は、一方で一国内の多民族化・多文化化を生み出しています。

このような移民の加速化の動きは、日本においても顕著になってきています。2005年末の我が国の外国人登録者数は約201万人となり、初めて200万人を突破し、総人口の1.57%に達しています。一方、逆の視点から見ると、日本もつい半世紀前までは移民の送り出し国でした。日本は、開国早々の百数十年前、ハワイや北米に多くの移民を送りました。その後も、中南米、東南アジア、中国大陸等へと多くの日本人が移住しました。戦後も、農村の次男問題の中で、自己の潜在能力を広く海外に求めた青年の移住が続き、そのような歴史的経緯の中で、現在も250万人以上の日系人が海外に生活しています。

しかし、これまで日本の学校教育において、日本から海外に出ていった日本人移民や、日本に移民してきた外国人の歴史的経験や現状について、これまで教科書を始め授業の中で十分に取り上げられてきませんでした。近代日本の黎明期に多くの日本人が海外に移民した事実、彼らとその子孫の現地での苦労や貢献、文化や現状、そして現在日本にリターン移民してきている日系人の現状や問題を立場を変えて共感的に学ぶことは、グローバル化と多文化化が連動して進行するこれからの社会を生きる子どもたちにとって「共生」に向けての資質を養う上で意義があると考えます。

今後、世界の移民人口はますます増加すると予想されています。このような地球的規模で相互依存を増しつつある21世紀の世界の中で、グローバルな価値の実現をめざして行動できる地球市民としての資質に加え、多文化社会の中で異なる文化を受容し、尊重し、それとの共生に向けて行動できる市民としての資質の育成の両方が求められています。「移民」についての学習は、ヒトの国境を越えたグローバルな移動とそれに伴う世界的な規模での相互依存関係と、一国内における多文化の共生をつなげて考える格好のテーマです。

また、歴史的に移民は移住先において「他者」として絶えず自由、平等、公正と行った基本的人権の脅威にさらされてきました。その意味で、移民についての学習は、今日の多文化社会における人権や市民権のあり方といった民主主義の基本原則を学ぶシティズンシップ教育の格好の機会ともなりえます。さらに、移民文化の特色は、複数の文化が接触、混交して形成される「ハイブリディティ（異種混濁性）」です。移民についての学習は、ある国（民族）やその文化を本質的なステレオタイプとしてとらえることが多かった従来の国際理解教育（異文化理解教育）に対して、文化の変容性や混濁性といったダイナミックで批判的な視点を提供してくれます。

本冊子では、以上のような移民学習の意義を踏まえて構想、実践された小・中・高等学校の学習活動案と教師の教材研究に役立つさまざまな資料を掲載しました。特に、本研究会では学習者が興味を持って学習に取り組めるように、移民学習に活用できるさまざまなモノを集めたアウトリーチ教材「ニッケイ移民トランク」を開発しました。本冊子と「ニッケイ移民トランク」が、日系移民についての授業づくりを計画されている先生方のお役に立てれば幸いです。

多文化社会米国理解教育研究会
代表 森茂岳雄

移民を授業する ー日系アメリカ人学習活動の手引きー

目次

はじめに ー移民を授業するー	1
第1部 日系アメリカ人の歩みをたどる	3
コラム：国立天文台ハワイ観測所	
アメリカに生きる日系人の歩み	
第2部 授業をつくる	11
コラム：ハワイの盆ダンス	
小学校 1 Let's 盆ダンス	
小学校 2 ハワイで暮らす日系人から見た第二次世界大戦	
小学校 3 ブックトーク：日系アメリカ人の経験を読もう	
中学校 1 日系アメリカ人の歴史と市民権から学ぶ ー多様な人々が暮らすハワイからー	
中学校 2 太平洋戦争とは何だったのか？ ー日系人の視点から考えようー	
中学校 3 日系移民について考える ー日本の伝統が残る、あなたの知らないハワイー	
高等学校 1 グローバル化と移民 ー日系人の体験を通してー	
高等学校 2 レシテーション活動 ーニッケイの人たちのことばー	
大 学 海を渡る日系人 ーグローバル化と移民ー	
コラム：ハワイ島の日系人墓地	
第3部 日系アメリカ人の経験に学ぶ ーインタビューからー	31
コラム：二世ウィーク	
ソウジロウ・タカムラ（高村總二郎）、エド・イチヤマ、ヘンリー・S・ヤスダ、トモエ・ニシ	
楽しく学ぼう「移民カルタ」「紙芝居」	
第4部 授業づくりに役立てる	37
コラム：ハワイ日本人センター	
1. 日米の移民関係博物館ガイド	
全米日系人博物館、ハワイプランテーションビレッジ、ハワイ日本文化センター、	
日本ハワイ移民資料館、JICA横浜海外移住資料館	
2. 日系アメリカ人関連年表	
3. 児童・生徒が読める日系アメリカ人に関する図書	
4. 教師の教材研究に役立つ日系アメリカ人に関する図書	
5. 貸し出し教材 ニッケイ移民トランク	

第1部

日系アメリカ人の歩みをたどる

コラム：国立天文台ハワイ観測所

ハワイに日本の天文台があることをご存知でしょうか。それはハワイ島のマウナケア山頂に建設された国立天文台ハワイ観測所です。ハワイ観測所では、1999年から観測が始まりました。マウナケア山はハワイ諸島の最高峰で、標高4139mです。山頂は晴天の夜が年間240日もあり、天体観測を妨げる人工的な光の影響をほとんど受けないために天体観測にとって最適な場所です。ハワイ観測所には「すばる望遠鏡」と呼ばれる口径8.3mの世界最大級の鏡を備えた光学赤外線望遠鏡が設置されていることでも有名です。山麓から山頂までは道路が整備されており、一般観光客でも自動車で簡単に登ることができます。しかし、山頂の気圧は地上の3分の2しかなく、夜間の年平均気温は0度です。私たちが訪れた8月でも、セーターの上に防寒着が必要でした。山頂では、観測所内の階段を昇り降りするだけでめまいを体験しました。この過酷な自然環境の中、多くの日本人研究者が研究と観測に携わっています。また、ここでは日本を含む11カ国の観測所が集まる国際的研究施設を形成しています。マウナケア山頂はハワイと同じ多民族社会であり、そこの日本人研究者は「新日系人」と呼べる存在かもしれません。

(田尻信壹)



左側の建物が国立天文台ハワイ観測所
(ハワイ島, 2006年8月)

アメリカに生きる日系人の歩み

□はじめに

最初にアメリカに渡った日本人はどんな人？

現在、アメリカには多くの日系人が暮らしています。日系人は見た目では日本人と見分けのつかない人も多くいますが、三世（移民した人から数えて第三世代目の人）や四世になると日本語を話す人はほとんどいません。また、意識の上でもアメリカに生きるアメリカ人なのです。それでは、いったいアメリカに暮らす日系人はどれくらいいるのでしょうか。

2000年の国勢調査によると、アメリカに住む日系人人口は79万5051人で、そのほとんどがハワイ州と本土の西海岸（カリフォルニア州、オレゴン州、ワシントン州）に暮らしています。アメリカに住むアジア系集団の中で、日系人は1970年代までは最大の集団でしたが、近年、アジア各国からの新しい移民が増え、現在では、中国系、フィリピン系、ベトナム系、韓国系につぐ、第五番目の集団になっています。

では、最初にアメリカに渡った日本人は誰だったのでしょか。1841年、土佐の鯨船が漂流し5名の日本人がアメリカの捕鯨船ジョン・ホランド号によって救助され、ホノルルに入港しました。その後、1名がジョン・ホランド号とともにアメリカに渡りました。この人物が後にジョン・万次郎と呼ばれた中浜万次郎でした。また、1850年には、「永力丸」が遠州沖で漂流し、アメリカ船に救助され、乗船していた浜田彦蔵ら17名はアメリカへ渡りました。彦蔵はアメリカのボルチモアで市民権を得て、ジョセフ・ヒコと名乗りました。ここに日系アメリカ人第1号が誕生したのです。

日本からアメリカへの移民（他国

に移って住むこと、またその人）は、1868年（明治元年）、出稼ぎ移民が砂糖きびプランテーション労働者としてハワイに到着したのが最初でした。その後、1924年の「排日移民法」によって日本からの移民が完全に停止されるまでの間に、多くの日本人移民がハワイやアメリカ本土に渡りました。今日、アメリカに住む日系人の大半がその子孫なのです。

アメリカへの移民が始まってから現在までの間に、日系人は様々な経験をしてきました。アメリカにおける日系人の歴史を、「移民初期」（1841年～1899年）、「移民と排日運動期」（1900年～1936年）、「太平洋戦争と強制収容期」（1937年～1945年）、「戦後復興期」（1946年～1965年）、「補償運動期」（1966年～）の五つの時期にわけてみましょう。

□移民初期（1841年～1899年）

ハワイに日系人が多いのはなぜ？

1868年、日本人最初の海外移住者約150人が砂糖きびプランテーションの労働者としてハワイに渡りました。1868年がちょうど明治元年にあたることから彼らは「元業者」



他の島に渡る船を待つ移民（ブライアン、1899）



(がんねんもの)と呼ばれました。アメリカ本土への移民は翌年1869年、オランダ人エドワード・シュネルに率いられて渡米した会津藩の一団が最初でした。彼らは悲劇の会津戦争後、アメリカ大陸に新天地を夢見た会津藩の落人だったのです。

1881年には、ハワイ国王カラカウアが来日して、中国人に代わる労働力を求めて日本人移民誘致を日本政府と交渉しました。それによって1885年には政府間の契約による「官約移民」¹⁾ 1930人がハワイに渡りました。その後、1894年にハワイ官約移民制度が廃止されるまでに、26船で約2万9千人がハワイへ渡りました。その後は民間の移民会社が移民を斡旋するようになり、広島、山口、沖縄、熊本などから多くの人々がハワイやアメリカ本土へ渡りました。

ハワイの砂糖きびプランテーションでは、マネージャーはいつもヨーロッパ人でした。労働監督はポルトガル人がスペイン人で、日本人は皆、汗みどろになって働く肉体労働者でした。当時、ある日本人新聞記者は、その状況を「アメリカの南部の白人と黒人奴隷の主従関係に似ている」と書いています。プランテーションでは中国、フィリピン、韓国などの各国からの移民も働いており、それらの文化が接触し、ハワイ先住民の文化も取り込

1) 「官約移民」(かんやくいみん)

官約移民とは、日本の明治政府とハワイ王朝の間に締結された「日布渡航条約」にもとづいて1886年から1894年までにハワイへ渡航した日本人契約移民のことをいいます。

1880年代、日本は不況のどん底にあえいでいました。商業の不振、失業、重税、凶作に見舞われました。明治政府は農村の不況の対策として移民募集を積極的に行ったのです。1891年ごろから、民間の移民会社ができはじめ、政府は移民の取扱をすべて移民会社にまかせました。

んで新しい文化が生まれました。

1880年代後半には、アメリカの高賃金に魅せられてカリフォルニアへ移民する日本人が増え、ハワイから本土に渡るものも現われ、1895年にはアメリカ本土に暮らす日本人は6,000人に達しました。ハワイやカリフォルニアでは日本人移民によって日本語の新聞や雑誌も刊行されるようになり、日系人の定住が進みました。

2) 移民と排日運動期(1900年～1936年)

なぜアメリカへの日本人移民が禁止されたのでしょうか？

当時の日系人移民は、いつかはお金をたくさんためて日本へ帰ることを夢見ていたため、低賃金でも懸命に働きました。しかし、アメリカ本土ではあまりにも短い期間に日本



多様な国からの移民が働いていたプランテーションで生まれたミックスプレートには各国の料理が盛られる。(マウイ島, 2006年8月)

人移民が殺到したため、仕事を奪われることを心配したアメリカ人による日本人排斥の動きが強まりました。そのため、日本人移民はかつて中国人移民が経験したようなひどい人種差別と戦わなければなりません。日本人は法律で「帰化不能外国人」と規定され、結局1952年までアメリカに帰化することができませんでした。

1900年、日本政府はアメリカへの移民を一時禁止しましたが、日本人移民に対する排斥気運が高まり、サンフランシスコでは市民大会で日本人労働者排斥が決議され、その後ますます日本人への排斥運動が激しくなりました。1906年、サンフランシスコ教育委員会では東洋人学童排斥命令が出され、日系人児童は隔離された東洋人学校へ通うことを強制されました。1907年の「紳士協定」をうけて、日本政府は1908年からアメリカへの日本人移民を制限しました。

アメリカ本土在住の一世の多くは、1910年頃までに何らかの形で農業に携わるようになり、その大部分がカリフォルニア州に集まっていました。彼らは農民として定住するにつれ、日本人農業組合を組織するなど、様々な形で連携することで、アメリカ西部の農業開発に大きな貢献をしました。しかし、日系移民の農業の発展とともに、白人の反日感情も高まってきました。



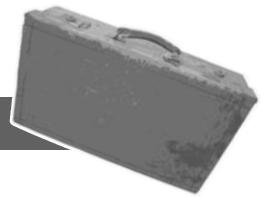
入国審査の順番を待つ「写真花嫁」たち



港につき夫を探す「写真花嫁」
(ハワイプランテーションビレッジ, 2006年8月)

さらに、1913年にはカリフォルニア州を初めとし、その後数年してワシントン州やオレゴン州など九つの州で、実質的に日系人の土地所有を禁止する「外国人土地法」が成立し、日本人移民たちはアメリカ生まれの二世の子ども（アメリカ国籍）の名義で土地を所有しなければならなくなりました。当時アメリカでは、異人種間の結婚は法律で認められていなかったため、日本に帰って結婚相手を見つけるだけの資金がない男性は、日本にいる親戚を通して写真を交換することで結婚相手を見つけました。これが「写真花嫁」と呼ばれるシステムで、「写真花嫁」の渡米を日本政府が禁止するまで、1900年代後半から1920年の間に多くの「写真花嫁」が渡米し、結婚して家庭を築き、それにより日系コミュニティの発展が促されたのです。やがてアメリカ生まれの二世が増えるとコミュニティも大きくなり、さまざまな社会活動を提供するようになり、二世に日本語と日本文化を教えるため、日本語学校も作られました。子どもたちは放課後、様々なクラブ活動やスポーツを楽しんで、毎日を過ごしたのです。

日系人は移民初期より、様々な人種差別に直面しましたが、1920年代に入り、排日運動の高まりの中で、ついに1924年、「排日移民法」¹⁾が成立し、日本からの移住が完全に禁止されました。こうした動きに対応して日系人は県人会や各組織をつくりました。



1930年には、その後日系人社会をまとめていくのに重要な役割を果たし、現在も日系社会に影響のある日系アメリカ人市民協会（Japanese American Citizens League）が組織されました。

1920年代後半から1930年代にかけ、二世の人口はどんどん増加し、やがて日系人コミュニティの大多数を占めるようになりました。1940年頃には、二世の大部分はまだ高校生以下でしたが、その数はすでに日系アメリカ人総人口の63%にまで達していました。

二世はアメリカの大衆文化の影響を強く受けて成長しました。公立学校に通い、クラスメイトと同様に英語の本や雑誌を読み、ハリウッド映画やラジオ放送を楽しんだのです。しかしその一方、彼等は一世の両親や日本語学校の教師から日本的な道徳心や文化も学びました。このような二重の文化的影響を受けて、二世はアメリカ人となっていたのです。

□第二次世界大戦と強制収容期 （1937年～1945年）

第二次世界大戦中、日系アメリカ人はどのような生活を送ったのでしょうか？

昭和に入り、日本は戦争への道をつきすすみました。1931年、満州事変がおき、1937年には日中戦争が始まりました。世界では1939年から第二次世界大戦が始まり、アメリカの対日感情は悪化の一途をたどり、アメリカで暮らす日系人の立場はさらに悪いものになりました。

第二次世界大戦期は日系人にとって最もつらい時期でした。1941年12月7日（日本時間8日）、日本軍による真珠湾攻撃が行われた直後、日本軍に味方しているのではないかと疑いによって在米日系人指導者1291人が拘束され、736人が危険人物であるとしてFBIに逮捕されました。厳しい尋問の後、彼

☞ 「排日移民法」

外国移民の流入が激しくなると、移民の入国を制限することを主張する人々が勢力を増しました。1924年、移民を制限することを目的とした新移民法が制定されました。新移民法は日系人に大きな影響を与えました。日本からの新移住者は特例を除いて禁止され、帰国して妻をむかえて再渡米することも禁止されました。新移民法は日本人移民を禁じることを目的としていたので「排日移民法」と呼ばれたのです。

☞ 「大統領行政命令9066号」

1942年2月19日、ルーズベルト大統領は行政命令9066号に署名し、「一部、またはすべての住民を、立ち退かせることができる軍事地域を指定する権限」を陸軍省に与えました。この命令により陸軍省は太平洋岸をこのような軍事地域と決めました。そして日系人は夜8時以降、外出してはいけなく、また、自宅から8キロメートル以上遠くへ行ってはいけなく、と命令したのです。

☞ 「敵性外国人」

戦争をしている相手国の国民やその国の出身者のこと示します。すでに国籍がある場合、外国人ではないはずですが、アメリカ国籍をもっていた二世に対しても「敵性外国人」として扱いました。敵国であったドイツ系やイタリア系の人々は敵性外国人とはされず、強制収容もされませんでした。当時日系人への人種的差別や偏見があったことがわかります。

らの多くは留置場に長期間拘束されたのです。

翌1942年2月19日、ルーズベルト大統領は、「大統領行政命令9066号」[☞]に署名し、それによってアメリカ西海岸に居住していた約12万人の日系人（その60%はアメリカの国籍を有していた）は、スパイ行為や破壊行為の事実がないにもかかわらず「軍事上の必要性」という名目の下、強制立ち退き・収容を余儀なくされたのです。アメリカ生まれの日系人も外国生まれの日系人も同様に、

アメリカ国内10箇所に点在した強制収容所に収容されました。しかし、同じ「敵性外国人」¹⁵⁸であったドイツ系やイタリア系に対しては、強制収容は行われなかったのです。

収容所は砂漠地帯などの住環境には適さない地域に作られ、有刺鉄線に囲まれた敷地内にバラックが建てられ、6メートル四方の一部屋に一家族が暮らしました。部屋には水道もなく、共同の洗面所と洗濯場に行かなければなりませんでした。日系人は収容所での生活¹⁵⁹をよくするために、施設設備を改善し、学校や娯楽施設を作るなど、様々な努力や工夫をしました。しかし、収容所内コミュニティの生活は、いつもプライバシーがなく、長い列と狭苦しい生活空間、混雑した食堂と浴場など、いつも混乱をきたしていました。男性と女性が別れて食事をしたり、子どもは子どもだけで集まって活動したりする間に、日系人家庭内での親の権限も次第に弱まってきました。

戦時中に全米を被った反日ヒステリーのの中で、「民主主義」「自由」「平等」というアメリカの理想は無視され、合衆国憲法も日系人の権利と自由を守ることができませんでした。合衆国本土では、日系人の強制収容が進められましたが、ハワイの状況は異なっていました。ハワイ全人口の40%近くを占め



強制収容に送られる家族
(ハイワード, 1941年)

ている日系人を強制的に隔離するのは、それが地元の経済に与える影響の大きさを考えると、現実的には不可能なことでした。そのかわり政府は厳戒令を発し、随時「危険」と思われる日系人を逮捕していきました。

このように自らの合衆国への忠誠心を疑問

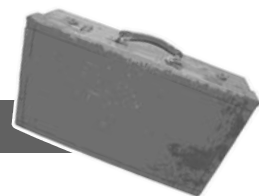
視された日系人ですが、アメリカの戦争遂行に協力し、積極的に従軍するものもいました。合計1万人のハワイ二世がアメリカ陸軍第100部隊(二世部隊)所属の兵士となり、やがて彼らを中心に本土の二世兵士が加わって第442連隊戦闘部隊¹⁶⁰が編成されました。この第442連隊戦闘部隊が示した日系人のアメリカへの忠誠心とヨーロッパ戦線での活躍が、その後の戦後補償運動に重要な意味を持つことにもなったのです。

多くの日系人がこのように従軍志願することや強制収容政策にしたがうことで忠誠を示そうとしたのに対し、別の形で愛国心を示そうとした日系人もいました。4人の二世は西海岸からの退去命令などの違憲性を裁判で問うという道を選び、彼らは合衆国最高裁判所にいたるまで政府と争い続けたのです。1944年、日系アメリカ人の徴兵が再開されると、反対し投獄されるものもいました。しかし、彼らの主張は、「憲法によって保証されたアメリカ市民としての権利を政府が認めれば進んで徴兵に応じる」というものでした。

□戦後復興期(1946年～1965年)

戦争が終わって日系人はどのような問題に直面したのでしょうか？

第二次大戦の終結とともに、収容所が閉鎖され日系人は西海岸に戻り、家屋破壊や周囲の敵意に直面しながらも生活の立て直しをはかりました。しかし、日系人にとって戦時中の強制立ち退きによる経済的損害もさることながら、精神的な打撃も大きかったのです。戦後長い間、ほとんどの二世は強制収容の経験を恥ずべきことと考え、それについて沈黙を守り、白人社会への同化を進め、白人と同じようにふるまい、行動しようとしてきました。それは彼らのエスニック・アイデンティティ(日系人としての意識)のみならず、三世の



子育てや日系人社会の発展方向にも影響を及ぼしました。

1952年、ウォルター・マッカラン法により、1924年の排日移民法が修正され、日系一世の帰化（アメリカ人としての市民権の取得）が可能となりました。1952年にはカリフォルニア州最高裁で違憲判決が出て、事実的に日系人を苦しめてきた排日土地法が撤廃されました。そして、1962年にはハワイ選出のダニエル・イノウエが日系人初の上院議員に選出され、1972年には、ジョージ・アリヨシが日系アメリカ人としてはじめてハワイ州知事に選出されるなど日系人の地位は徐々に向上していきました。

このように、太平洋戦争後、多くの日系人が急速に自己の生活を再建し、目覚ましい経済的、政治的成功を遂げるうち、アメリカ社会には日系人に対する新しいステレオタイプが生まれました。日系人は「模範的」マイノリティと呼ばれるようになったのです。

□補償運動期（1966年～）

戦後、日系人はどんな社会運動を展開したのでしょうか？

1960年代から1970年代にかけて盛り上がった公民権運動や黒人解放運動は、アメリカ人の意識を変え、その結果、新しい法律が数多く制定されました。アフリカ系アメリカ人は自分の主張を社会に訴えかけ、他の少数民族グループもそのような動きに加わるようになりました。日系人の強制収容に対する謝罪と損害賠償を求める運動は、戦後直後から開始されていましたが、このようなマイノリティ運動に刺激され、1970年代後半から急速に進展していきました。当初、多くの日系人は苦しかった過去を思い出したり、心の奥底に眠っている古傷に触られることにはあまり乗り気ではありませんでした。また国家

強制収容所の生活

ざらざら照りつける太陽は体中の水分を奪ってしまうのではないかと、ユキは思った。心臓にはしわがより、肺もひからびていくような気がした。頭はぼーっとしてまるで他人の体を借りているみたいだった。新しい部屋は、タランフォンの馬小屋よりは広かった。これはうれしかったが、殺風景さには変わりはない。三組の軍隊用簡易ベッドのほかには何もなかった。内側の壁には何もはってなく、壁や窓枠のすき間から砂ぼこりが遠慮なく入ってきた。（ヨシコ・ウチダ『トパーズへの旅』評論社、1975年、pp.142-143より）

第442連隊戦闘部隊

この第442連隊戦闘部隊は多くの死傷者を出しながらイタリア戦線で活躍しました。彼ら二世兵士が“Go for Broke”（当たって砕けろ！）を合言葉に戦場で見せた戦い振りは、日系人に対するアメリカ社会の認識を変えただけでなく、兵士たちは故郷に戻ると戦後日系人コミュニティ再建の原動力となったのです。



賠償をどのように勝ち取るかについての方法論や、それによって何を求めるかについても多様な考えが混在していました。

しかし、1981年には「戦時民間人転住・収容に関する委員会」による最初の公聴会が開かれ、その後全米10都市で同様の公聴会が開かれ550人が証言に立ちました。それらをもとに委員会は、第二次世界大戦期の日系人の強制収容は「人種的偏見」、「戦時の狂乱」、「政治指導の過ち」に基づくものであったと結論づけ、報告書を議会と大統領に提出しました。

そして1988年8月10日、強制収容に対する補償を規定した「市民的自由法」にレーガン大統領が署名し、アメリカ政府による謝罪文と一人2万ドルの補償金が、1990年10月から約8万人被強制収容者に渡されま

した。この長年の運動によって実現した日系アメリカ人への謝罪と補償により、日系人はアメリカへの信頼をとり戻したのです。

これは強制収容が単に日系人だけの問題ではなく、すべてのアメリカ人に関わる重大な問題であると認識されたことのあらわれでした。



二世ウィークパレード（ロサンゼルス、2006年8月）

□今日の日系人

日系アメリカ人の今は？ そしてこれからは？

日系人は、第二次世界大戦中にそれまで集中して居住していた西海岸から内陸部へと強制移動させられ、戦後は移民した直後と同様のゼロからの出発を余儀なくされました。しかし、犠牲をともなった努力によって急速に社会的・経済的地位を上昇させ、今日アメリカの主流に入り込んできています。教育水準や所得の高さではアメリカの全体の平均を上回り、職業面でも専門職に就く人が多く、「成功したマイノリティ」と称されることが多くなってきています。しかし、こうした成功神話は日系人が直面しているいろいろな問題を覆い隠すことにもなっています。例えば、日

系人家族の平均収入は共働きの家庭において、アメリカ人家庭の平均収入より高いのに昇進する機会が制限されていたり、年老いた日系人が必要な社会的サービスや医療福祉の対象から外されたりしたのです。

1980年の統計では、日系人の72%がアメリカ生まれであり、現在は、三世、四世、五世の世代になってきています。今日、日系人は日系コミュニティの中だけで生活することはなく、日本語を話す三世はほとんどおらず、日系三世の60%が日系人以外と結婚しています。

このように日本人がアメリカに移住してから100年余りの間に、他集団との様々な関わり合いをもち、彼らの自己・他者意識も大きく変容し、現代の日本人とは異なる「日系アメリカ人」としての世界観を築いています。一方、現在アジア系の中には、中国系や日系といった個別の意識よりも、自分は「アジア系アメリカ人である」という意識も徐々に育ってきています。

このように、かつてアングロ・サクソン系白人を中心に成り立っていたアメリカは、現在、多文化多民族が共存・共生するアメリカへと変化してきています。このような変化によって、これまでアメリカの歴史の中に埋もれてきた日系人の歴史的経験も、新しい視点から見えるようになってきているのです。

（森茂岳雄・中山京子）



日系人以外の参加も多いハワイの盆ダンス
（Soto Mission Betsuinにて、2005年7月）

中学校2 太平洋戦争とは何だったのか？ —日系人の視点から考えよう—

キーワード 真珠湾攻撃，日系人，強制収容

1 教科領域との関連性

社会科（歴史的分野）

2 実施時期および総時数

第二次世界大戦，太平洋戦争

時数：3時間（指導形態に合わせて弾力的に運用）

3 トランクキット内の資料との関連

- 1941年12月7日のHonolulu Star-Bulletin（新聞）復刻版
- 『そのとき僕はパールハーバーにいた』（図書）
- 洗濯板
- 全米日系人博物館編『日系アメリカ人の歴史—アメリカに渡った日系人の歩み—』全米日系人博物館，2001年
- 立ち退き行政命令ポスター（復刻版）



本単元で使うトランクキット内の資料

4 単元（活動）目標

- 太平洋戦争勃発の経緯を日米双方の立場や見解の違いに着目して理解することができる。
- 日系アメリカ人の歴史や境遇を理解し，多角的な視点から太平洋戦争を考えることができる。

5 単元について（教材観・単元設定の理由など）

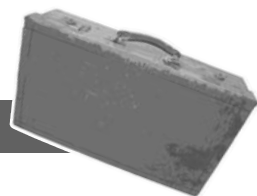
日本軍による真珠湾への攻撃が開始されるまでの間，日米両国ではぎりぎりの和平交渉が展開されていた。1941年4月ワシントンで日本の野村吉三郎，米のハル国務長官との交渉が始まるが，同年7月28日，日本陸軍のベトナム南部への侵攻の情報が入ると状況は急転する。8月1日ルーズベルト大統領は対日石油の禁輸を決定し，大東亜共栄圏構想を掲げる日本の中国・東南アジアへの侵攻はさらに激しくなり，日本国内は準戦体制へと一気に加速していく。10月18日に発足した東条英機内閣は，アメリカからの最終和平交渉案（いわゆるハル・ノート）を黙殺し，山本五十六率いる連合艦隊をハワイへと出港させる。そしてアメリカとの開戦はもはや不可避との判断が下され，1941年12月8日，日本軍は真珠湾の攻撃を開始した。まさにこの瞬間こそ太平洋戦争の勃発であり，その後アメリカ政府が日本軍の攻撃の不当性を国際社会に訴え，宣戦布告がなされることになる。太平洋戦争幕開けの舞台となったハワイには，すでに15万人以上の日本人が移住し，生活をしていたといわれている。この単元では，国家と国家の思惑がせめぎ合う戦争という舞台の中で，日本とアメリカの二つの祖国との間に人生を翻弄される日系移民の人々に焦点をあてて，太平洋戦争とは何だったのか，あらためて戦争の姿

と，平和を希求する心構えを子どもたち自らが学習を通して問い直す契機をつかむことを期待するものである。

【資料1】大統領行政命令第9066号 陸軍長官への軍事地域指定権の付与（抄訳）

本戦争を成功裏に遂行するために・・・私はここに，陸軍長官及び陸軍長官が任命する司令官に対し，必要または望ましいと判断する時には何時でも，陸軍長官または司令官が決定する地域を軍事地域として指定し，そこから一部もしくは全員を排除する権限を付与する。これに関連して，いかなる者に対しても，そこへの立ち入り，滞在及び退去の権利は，陸軍長官または司令官の規制に従わなければならないものとする。陸軍長官には，いかなる地域からにして，そこから排除された住民に対して，陸軍長官または司令官の判断に従って，必要とされる交通手段・食糧・宿舍その他の便宜を供与し，新たな措置が取られるまで，この命令の目的を遂行する権限が付与される。・・・

フランクリン・D・ルーズベルト
ホワイトハウス，1942年2月19日



6 展開計画

時	主な学習活動と学習者の意識	〇留意点
第1時	<p>第二次世界大戦勃発の背景を理解する</p> <p>〇日本はどのようにしてこの戦争に参加していったのだろうか。 →日本が日独伊三国同盟の締結を決定し、日米開戦へと突き進んでいく過程を考える。</p> <p>〇なぜ日本は真珠湾を攻撃したのだろうか。(新聞記事を提示) 真珠湾攻撃を報じた新聞記事</p>	<p>〇戦争の長期化と資源の枯渇の側面から日本が南進した過程を理解する。</p> <p>〇日中戦争の長期化と日米関係の悪化など国際情勢の変化に着目させる。</p> <p>📖 「1941年12月7日のHonolulu Star-Bulletin復刻版」の記事を見て、日本の真珠湾攻撃の背景を理解する</p>
第2時	<p>ハワイに移住した日系人を理解する</p> <p>〇なぜハワイに日本人がいたのだろうか。(洗濯板を提示) →1868年(明治元年)元年者とよばれる約150人の日本人移民が最初に訪れたことを知る</p> <p>〇【資料2】を読み、「写真花嫁」としてハワイにやってきた人々がいたことを理解する。→日本人の多くは砂糖きび畑の労働者として働いていたことを知る。</p> <p>〇『そのとき僕はパールハーバーにいた』を読んで、感想をノートにまとめさせる。</p>	<p>📖 洗濯板を提示し、ハワイに日本人の生活文化が定着していたことに気づかせる。</p> <p>〇開戦当時ハワイにはすでに15万人以上の日本人が移住生活をしてきたことを解説する。</p> <p>📖 『そのとき僕はパールハーバーにいた』</p> <p>〇戦争を日米の両国の狭間で経験した人々の存在に気付かせる。</p>
第3時	<p>太平洋戦争中の日系人の歴史を理解する</p> <p>〇太平洋戦争が始まってアメリカの日本人たちはどうしていたのだろうか。 →ポスターを提示し、アメリカ国内では日本人排斥の機運が高まり、強制収容が行われたことを知る。</p> <p>〇強制収容での体験、その後の日系人たちの生活などを、日系人のインタビュー記事やビデオを見て、太平洋戦争が日系人にもたらした影響について自分なりの考えを感想にまとめる。</p>	<p>📖 立ち退き行政命令ポスター 強制収容所へ送られる日本人たちは移動のためにカバンは2つに制限されたことなど厳しい境遇に置かれたことを知る。</p> <p>📖 全米日系人博物館編『日系アメリカ人の歴史ーアメリカに渡った日系人の歩みー』</p>

7 評価

- ・太平洋戦争の勃発の経緯を日米双方の立場や見解の違いに着目して理解することができたか。
- ・日系人の歴史を理解し、彼らの置かれた立場について共感して理解することができたか。
- ・戦争に対する多面的な視点を持ち、自分なりの考えをもつことができたか。

8 授業づくりのための参考資料

【資料2】 広島からハワイに写真花嫁として嫁いだ日本女性の証言

1919年、私は18才で広島郊外に住んでいました。そして私の両親の元へ遠くハワイから若い男がやってきたのです。彼は私に若くて黒のスーツを着こなした男性の写真を見せると、結婚の話を持ち出しました。私は今でもおぼえているのは、その時母が私からうんと離れたところだったことです。そうです。私の写真を撮ってハワイに送るためです。結婚の話について私たちと家族が合意した時点で、私の戸籍謄本に婚姻届けの手続きがなされました。私は当時自分の結婚がこうして決められることに何の疑問も持ちませんでした。なぜなら両親が子どもの結婚を決めることは日本の習慣だったからです(訳筆者)。

(THE JAPANESE AMERICAN /FAMILY ALBUM (Dorothy and Thomas Hoobler with an introduction by George Takei, Oxford University Press 1995, P.38)

(上蘭悦史)



2. 日系アメリカ人関連年表

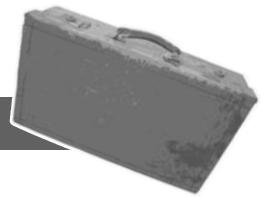
年代	年号	日本の主な出来事	日系アメリカ人に関する出来事（日米関係）	アメリカ及び世界の主な出来事
1841	天保 12		・ ジョン・万次郎米国入国	
1851	嘉永 4		・ 浜田彦蔵、灘破によりサンフランシスコへ。	
1854	安政 元	ペリー来航（1853）	（日米和親条約締結）	
1858	5		（日米修好通商条約締結）	リンカーン、大統領に就任（1861）
1863	文久 3			奴隷解放宣言
1868	明治 元	明治維新	・ アメリカ人ヴァン・リードの斡旋でハワイ出稼ぎ移民約150人がハワイに到着する。（元年者）	
1869	2		・ オランダ人、エドワード・シュネルが日本人約40人を伴いカリフォルニア州に若松コロニーを開設	初の大陸横断鉄道開通
1870	3		・ アメリカ本土で56人の日本人が存在。	
1881	14		・ ハワイ国王カラカウアが来日し、移民誘致を日本政府と交渉	
1882	15		・ ハワイ公使カペナが来日し、日本移民誘致を日本政府と交渉	中国人移民排斥法通過。日本人移民の増加要因となる。
1885	18		・ ハワイへの官約移民開始。（第一回945人、第二回985人がホノルルに到着）	外国人契約労働者禁止令
1899	22	大日本帝国憲法発布		
1890	23		・ 在米日本人2,000人を越す	
1891	24		・ 牛島謹（ポテト・キング）ポテト栽培開始	エリス島で移民の入国審査開始
1893	26		・ サンフランシスコ学務局、日本人児童の隔離を決定	ハワイ王国崩壊
1894	27	日清戦争	・ ハワイ官約移民が廃止。ハワイの日系人口29,000人	
1895	28		・ 在米日本人6,000人に達する。ホノルルに日本語学校を開設	
1898	31		・ 1891年以降の日本人移民125,000人	ハワイを合併
1899	32		・ 日本政府、ハワイ行き契約移民禁止	
1900	33		・ 初の沖縄県移民ホノルルへ到着 ・ 日本人協会発足	
1904	37	日露戦争		
1905	38	ポーツマス条約締結	・ カリフォルニア州で黄禍論高揚	
1906	39		・ サンフランシスコにて東洋人学童排斥命令発布	サンフランシスコ大地震
1907	40	ブラジル移民協約	・ 約38,000人のハワイ日本移民がアメリカに本土に転航	
1908	41		・ 日本政府、日米紳士協定により米国への日本人移民を制限	
1909	42		・ ハワイ日本人移民、約7,000人がストライキ、日本移民ハワイからの転航禁止	
1913	大正 2	日韓併合、移民渡航費補助中止	・ カリフォルニア州、排日土地所有禁止法案が成立。一世は土地所有できなくなり、二世の名義で土地を所有	
1914	3			パナマ運河開通、第一次世界大戦（～1918）
1918	7		・ 日系農民35,000人、農地182,190ヘクタール	
1920	9		・ 日本政府、写真花嫁の渡米を禁止	国際連盟発足
1923	12		・ 合衆国最高裁、日本人はアメリカへの帰化権を持たない人種であると判決	
1924	13		・ 排日移民法が実施されアメリカへの移民が不可能	
1929	昭和 4	満州事変（1931）、日中戦争（1937）	・ 日系人市民協会（JAACL）設立	世界大恐慌
1939	14		・ 三世の誕生開始	第二次世界大戦（～1945）
1940	15		（日米通商条約破棄）	
1941	16	真珠湾攻撃	・ FBIにより日系人指導者が拘束、逮捕 ・ 二世によるアメリカへの忠誠宣言	米対日宣戦布告
1942	17		・ ルーズベルト大統領が大統領行政命令9066号に署名、強制収容開始	
1943	18		・ 二世による第442部隊編成	
1944	19		・ 二世部隊イタリア戦線で活躍	
1945	20	広島長崎に原爆投下、ポツダム宣言受諾		
1946	21	日本国憲法公布	・ 最後の強制収容所（ツールレイク）が閉鎖	国際連合発足
1948	23	極東軍事裁判判決	・ 日系商業会議所救済物資を日本に送る。（ララ救援物資） ・ トルーマン大統領日系人立ち退き損害賠償法に署名	中華人民共和国成立（1949）
1951	26	サンフランシスコ平和条約調印	（日米安全保障条約）	

年代	年号	日本の主な出来事	日系アメリカ人に関する出来事（日米関係）	アメリカ及び世界の主な出来事
1952	27	日本主権を回復	・移民帰化法成立、すべての人種がアメリカに帰化可能 ・1924年の排日移民法が撤廃 ・全米新聞に「ジャップ」の差別表現を使用しないように勧告	朝鮮戦争（1950～1953）
1954	29		・日本人一世、1,600人の帰化宣誓式を挙行	ブラウン判決
1956	31	国際連合加盟	・カリフォルニア州、排日土地法撤廃	
1959	34		・ダニエル・イノウエが日系人初の下院議員に当選	ハワイ50番目の州に
1964	39	東京オリンピック開催	・パッツィー・タケモト・ミンクがアジア系女性初の下院議員	公民権法成立
1965	40	万国博覧会（大阪）（1970）	・新移民法が成立し、国別移民割当制廃止	ベトナム戦争激化（～1975）
1972	47	沖縄県返還、日中国交回復	・ロサンゼルスに日系人の45%が日本人以外の配偶者と結婚	アポロ11号月面着陸に成功（1969）
1974	49		・ノーマン・ミネタ、日系人初の本土の下院議員に当選 ・ジョージ・アリヨシ、ハワイ州知事に当選	
1980	55		・「戦時市民転住収容に関する委員会」設立	イラン・イラク戦争（～1988）
1983	58		・委員会の報告書「否定された個人の権利」が議会と大統領に提出、補償要求の主張を承認	
1984	59		・強制収容の日々を思い起こす「追憶の日」開催	
1986	61		・スペースシャトル爆破事故で日系人飛行士エリソン・オニズカ死亡	
1987	62		・スミソニアン博物館「より完全なアメリカー日系アメリカ人とアメリカ憲法」の展示開始	
1988	63		・日系人への強制収容補償法（市民的自由法）成立	ベルリンの壁崩壊（1989）
1990	平成 2		・日系人に対する強制収容の補償金の支払開始	ソビエト連邦解体（1991）
1992	4	阪神・淡路大震災（95）	・日系五世クリスティ・ヤマグチ、アルペールビルオリンピックのフィギュアスケートで金メダル受賞 ・ロサンゼルスに全米日系人博物館が開館 ・ハワイ・プランテーションビジネスマン開園 ・マウイ沖縄文化センター開館	EU発足（1993）
1994	6		・ホノルルにハワイに本文化センター開館	
1995	11	日本ハワイ移民資料館オープン		
2000	12		・ハワイ沖縄移民100周年記念式典挙行（日米で） ・ノーマン・ミネタ、日系人初の商務長官に任命	
2001	13		・ワシントンDCに日系人記念碑	9・11同時多発テロ
2002	14	横浜に海外移住資料館オープン		

(森茂岳雄・中山京子)

3. 児童生徒が読める 日系アメリカ人に関する図書

1. ヨシコ・ウチダ（中山庸子訳）『写真花嫁』学芸書林、1990年
2. ケン・モチヅキ作、ドム・リー絵（ゆりようこ訳）『かこいをこえたホームラン』岩崎書店、1993年
3. グレアム・ソールズベリー（さくまゆみこ訳）『その時ほくはパールハーバーにいた』徳間書店、1994年
4. 山本耕二『母と子でみる戦争と日系人』草の根出版会、1995年
5. M.O.タンネル&G.W.チルコート（竹下千花子訳）『トバーズの日記ー日系アメリカ人強制収容所の子どもたちー』金の星社、1996年
6. ヨシコ・ウチダ、（吉田悠紀子訳）『ゴールドヒルのサムライ』ひくまの出版、1999年
7. スティーブン・A. チン（金原瑞人訳）『正義をもとめてー日系アメリカ人フレッド・コレマツの闘いー』小峰書店、2000年
8. 森茂岳雄・中山京子・川崎誠司『日系アメリカ人の歴史ーアメリカに渡った日系移民の歩みー』全米日系人博物館、ロサンゼルス、2001年
9. 上坂冬子文、かこさとし絵『ユタ日報のおばあちゃん 寺澤国子ー海を渡った日本人ー』瑞雲舎、2004年
10. 加藤晴巳『ここが私の故郷ですーコロラド・サンルイスバレー日本人移住者の物語ー』新風社、2004年



4. 教師の教材研究に役立つ 日系アメリカ人に関する図書

A. 全般

1. 岡部一明『日系アメリカ人―強制収容から戦後補償へ―』岩波書店, 1991年
2. 藤崎康夫『日本人移民―写真絵画集成―(1) ハワイ・北米大陸』日本図書センター, 1997年
3. ハルミ・ベフ編『日系アメリカ人の歩みと現在』人文書院, 2002年
4. アケミ・キクムラ=ヤノ編(小原雅代他訳)『アメリカ大陸日系人百科事典―写真と絵で見る日系人の歴史―』明石書店, 2002年
5. レイン・リョウ・ヒラバヤシ他編(移民研究会訳)『日系人とグローバリゼーション―北米・南米・日本―』人文書院, 2006年

B. 歴史

1. R・ウィルソン, B, ホソカワ著(猿谷要監訳)『ジャパニーズ・アメリカン―日系米人・苦悩の歴史―』有斐閣, 1982年
2. 今野敏彦・藤崎康夫編著『移民史Ⅲ―アメリカ・カナダ編―』新泉社, 1986年
3. 桑井輝子『外国人をめぐる社会史―近代アメリカと日本人移民―』雄山閣, 1995年
4. 飯野正子『もう一つの日米関係史―紛争と強調のなかの日系アメリカ人―』有斐閣, 2000年
5. 坂口満宏『日本人アメリカ移民史』不二出版, 2001年

C. 一世と二世

1. ビル・ホソカワ(井上勇訳)『二世―このおとなしいアメリカ人―』時事通信社, 1971年
2. ビル・ホソカワ(飯野正子他訳)『120%の忠誠―日系二世・この勇気ある人びとの記録―』有斐閣, 1984年
3. アイリーン・スナダ・サラソーン(南条俊二訳)『The―一世―パイオニアの肖像―』読売新聞社, 1991年
4. ユウジ・イチオカ著(富田虎男他訳)『一世―黎明期アメリカ移民の物語り―』刀水書房, 1992年
5. 北村崇郎『一世としてアメリカに生きて』草思社, 1992年

D. 第二次世界大戦・強制収容

1. 小平尚道『アメリカ強制収容所―戦争と日系人―』玉川大学出版部, 1980年
2. 読売新聞社外報部訳編『拒否された個人の正義―日系米人強制収容の記録―』三省堂, 1983年
3. 藤田昇『立ち退きの季節―日系人収容所の日々―』平凡社, 1984年
4. 島田法子『日系アメリカ人の太平洋戦争』リーベル出版, 1995年
5. 大谷康夫『アメリカ在住日系人強制収容の悲劇』明石書店, 1997年

E. 第442部隊

1. 矢野徹『442連隊戦闘団―進め日系二世部隊―』角川書店, 2000年
2. 渡辺正清『ヤマト魂―アメリカ・日系二世自由への戦い』集英社, 2001年
3. 菊月俊之『二世部隊物語』グリーンアロー出版社, 2002年
4. 渡辺正清『ゴー・フォー・ブローク!―日系二世兵士たちの戦場―』光人社, 2003年
5. 矢野徹『442』柏艸舎, 2005年

F. 家族史・生活史

1. 大谷勲『他人の国, 自分の国―日系アメリカ人オカザキ家三代の記録―』角川書店, 1983年
2. 中野卓編『日系女性立川サエの生活史』お茶の水書房, 1983年
3. 我妻令子・菊村アケミ『千枝さんのアメリカ―日系移民の生活史―』弘文堂, 1986年
4. トミ・カイザワ・ネイプラー(尾原玲子訳)『引き裂かれた家族―第二次世界大戦下のハワイ日系七家族―』NHK出版, 1992年
5. ローレンス・ケスラー(武者圭子訳)『不屈の小枝―日系移民ヤスイ家三代記―(上・下)』小学館, 1995年

G. ハワイ

1. 牛島秀彦『行こかメリケン, 帰るかジャパ―ハワイ移民の100年―』サイマル出版会, 1978年
2. 島岡宏『ハワイ移民の歴史―新天地を求めた苦難の道―』国書刊行会, 1978年
3. フランクリン・王堂, 篠遠和子『図説ハワイ日本人史: 1985-1924』ビショップ博物館, ホノルル, 1985年
4. 沖田行司編『ハワイ日系社会の文化とその変容―1920年代のマウイ島の事例―』ナカニシヤ出版, 1998年
5. 山本英政『ハワイの日本人移民―人種差別事件が語る, もう一つの移民像―』明石書店, 2005年

H. コミュニティとエスニシティ

1. H.H.L.キタノ(内嶋以佐味訳)『アメリカの中の日本人―一世から三世までの生活と文化―』東洋経済新報社, 1974年
2. D.オキモト(山岡清二訳)『日系二世に生まれて―仮面のアメリカ人―』サイマル出版会, 1984年
3. 高木真理子『日系アメリカ人の日本観―多文化社会ハワイから―』淡交社, 1992年
4. 竹沢泰子『日系アメリカ人のエスニシティ―強制収容と補償運動による変遷―』東京大学出版会, 1994年
5. 山本剛郎『都市コミュニティとエスニシティ―日系人コミュニティの発展と変容―』ミネルヴァ書房, 1997年

I. 教育

1. 田中圭治郎『教育における文化同化―日系アメリカ人の場合―』本邦書籍, 1986年
2. 沖田行司『ハワイ日系移民の教育史―日米文化, その出会いと相克―』ミネルヴァ書房, 1997年
3. 森茂岳雄編『多文化社会アメリカにおける国民統合と日系人学習』明石書店, 1999年
4. 横田睦子『渡米移民の教育―葉で読む日本人移民社会―』大阪大学出版会, 2002年
5. 吉田亮編『アメリカ日本人移民の越境教育史』日本図書センター, 2005年

5. 貸し出し教材

ニッケイ移民トランク



開くと見える3つのコンセプト

1. グローバル教育と多文化教育をつなぐ

グローバル化と多文化化を考えるヒントが日系移民学習にあるんだ！

2. 多文化社会におけるシティズンシップを育てる

今日の進展する多文化社会に生きる市民的資質を移民の歴史から学ぶ事ができるんだ！

3. 国際理解教育における本質主義を乗り越える

ステレオタイプな文化理解を乗り越え、文化のダイナミックな変容や混合化について移民から学ぶ事ができるんだ！



ハンズオン教材

実際に触れて、
体感し、感性に
働きかける教材

博学連携教材

資料館や博物館
と連携して作成
した教材

増殖教材

日々新しいもの
が追加され、進
化する教材

支援教材

教師の教材研
究・生徒の学び
を支援する教材

発展教材

興味や関心に
応じて多方面に
発展可能な教材

ニッケイ移民トランク



を使ってみよう

貸出期間：2週間 貸出料：無料（送料実費）
貸出のご相談：多文化社会米国理解教育研究会
〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1
中央大学文学部 森茂岳雄研究室
morimo@tamacc.chuo-u.ac.jp
内容：もの・写真・映像など約150点
授業案や実践事例を掲載した学習の手引き他

※このほか、アフリカン・アメリカン・トランク／エイジアン・アメリカン・トランク／ミュージック・トランク／メディア・トランクがあります。
詳細は <http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~morimo/mulcul/>



移民を授業する



—日系アメリカ人学習活動の手引き—

執筆者一覧

森 茂 岳 雄 (研究代表 中央大学)
中山 京 子 (事務局長 京都ノートルダム女子大学)
田 尻 信 壹 (研究推進 富山大学)
居 城 勝 彦 (東京学芸大学附属世田谷小学校)
上 蘭 悦 史 (東京学芸大学附属竹早中学校)
織 田 雪 江 (同志社中学校)
小 松 万 姫 (東京学芸大学附属高等学校大泉校舎)
鈴 木 克 彦 (茨城県高萩市立秋山中学校)
福 山 文 子 (JICA 横浜海外移住資料館)

発 行 多文化社会米国理解教育研究会
〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1
中央大学文学部 森茂岳雄研究室気付
E-mail morimo@tamacc.chuo-u.ac.jp
発行年月 2007年3月

本手引き書は、国際交流基金日米センター (CGP) の助成を受けて研究した成果を刊行したものである。

CGP
The Japan Foundation
Center for Global Partnership